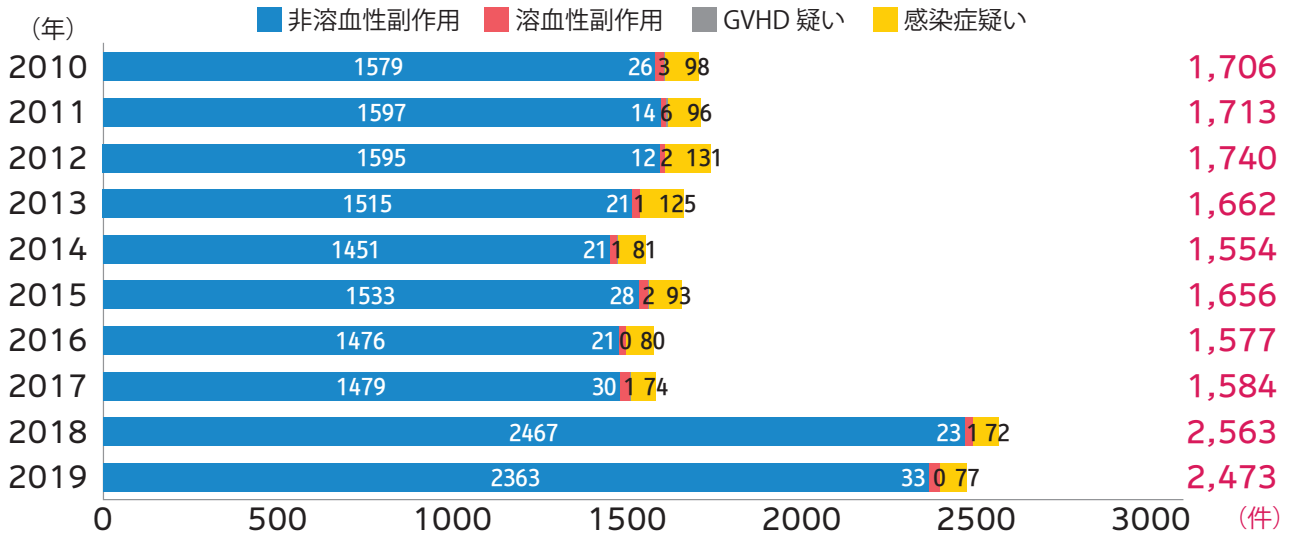


## 赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用 - 2019年 -

2019年に医療機関において輸血による副作用・感染症が疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、**最も報告数の多い非溶血性輸血副作用**についてお知らせします。

### 副作用・感染症報告数の推移及び副作用の種類 (輸血との関連性なしとされた症例も含まれます)

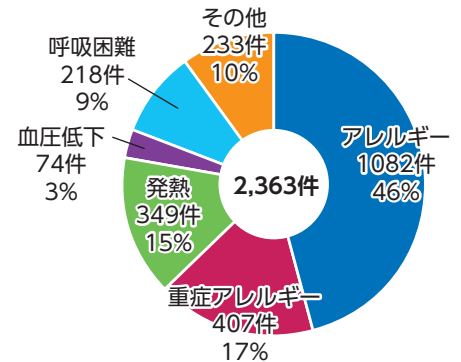


2019年の非溶血性輸血副作用報告数は2,363件であり、輸血による副作用・感染症報告数2,473件の95.6%を占めていました。平成30年(2018年)1月から輸血副作用・感染症の調査方法を変更したことにより、報告件数は増加しています。

### 非溶血性輸血副作用 (2019年)

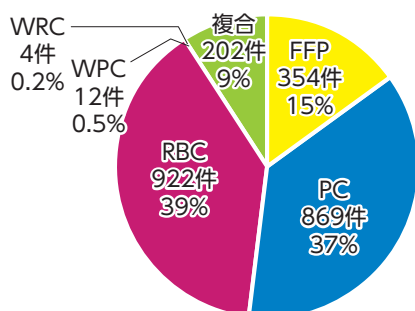
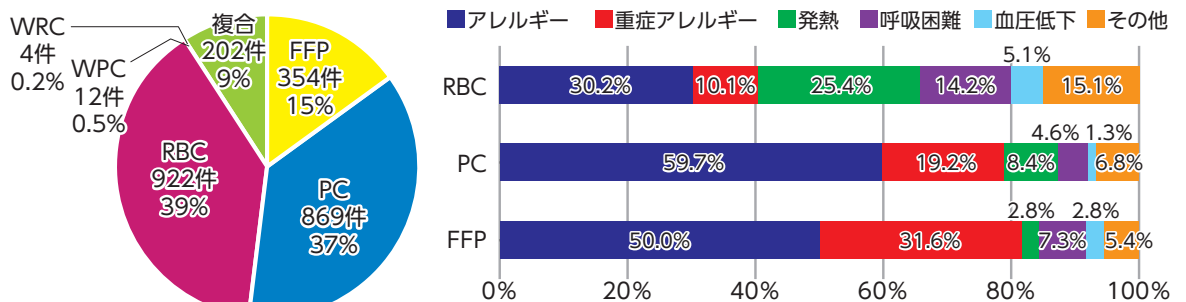
#### ■ 非溶血性輸血副作用の発生件数について

「アレルギー」が最も多く1082例(46%)発生しました。重症アレルギーを含め、副作用報告の約2/3がアレルギーでした。



#### ■ 使用製剤の種類及び製剤毎の副作用(症例別)発生内訳

赤血球製剤または血小板製剤による副作用が多く報告されています。赤血球製剤では他製剤と比較し、発熱と呼吸困難の報告割合が多くなっています。血漿製剤、血小板製剤ではアレルギー、重症アレルギーの報告割合が特に多くなっています。



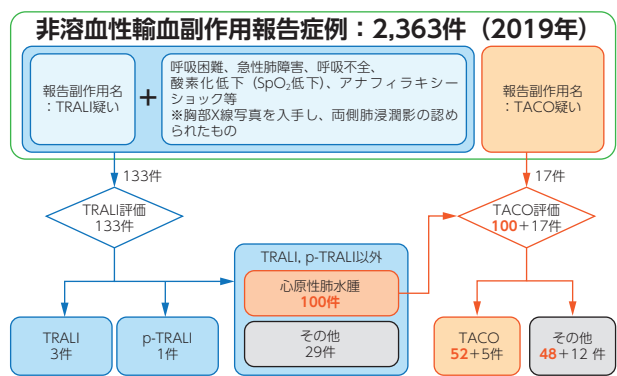
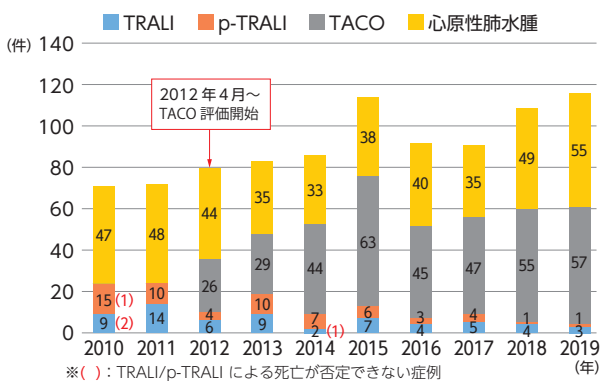
## ■ 使用製剤・症状別副作用報告数 (対供給本数に対する頻度) (2019年)

製剤	血小板製剤※		赤血球製剤※		血漿製剤	
	供給本数	816,324	3,262,683	902,007		
アレルギー	519件	(約1/ 1,600)	279件	(約1/ 12,000)	177件	(約1/ 5,100)
重症アレルギー	167件	(約1/ 4,900)	93件	(約1/ 35,000)	112件	(約1/ 8,100)
発熱	73件	(約1/ 11,000)	234件	(約1/ 14,000)	10件	(約1/ 90,000)
血圧低下	11件	(約1/ 74,000)	46件	(約1/ 71,000)	11件	(約1/ 82,000)
呼吸困難	23件	(約1/ 35,000)	63件	(約1/ 52,000)	14件	(約1/ 64,000)
心原性肺水腫	12件	(約1/ 68,000)	37件	(約1/ 88,000)	6件	(約1/150,000)
TRALI	0件		2件	(約1/1,600,000)	0件	
TACO	5件	(約1/160,000)	29件	(約1/ 110,000)	5件	(約1/180,000)
その他	59件	(約1/ 14,000)	139件	(約1/ 23,000)	19件	(約1/ 47,000)
合計	869件	(約1/ 940)	922件	(約1/ 3,500)	354件	(約1/ 2,500)

上記製剤には、放射線照射製剤及び未照射製剤の両方が含まれます。また、2種類以上の製剤が使用された症例は除外しました。  
 ※ 洗浄赤血球製剤、解凍赤血球製剤、合成血液、洗浄血小板製剤 (HLAを含む) の使用症例は除外しました。

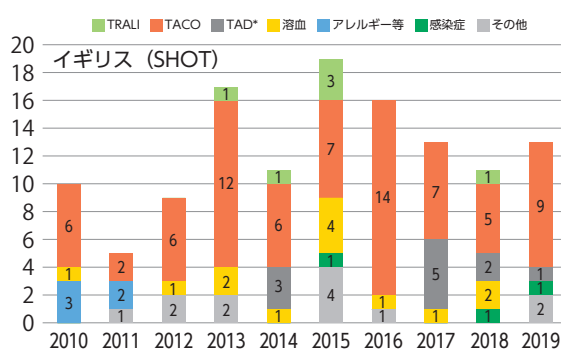
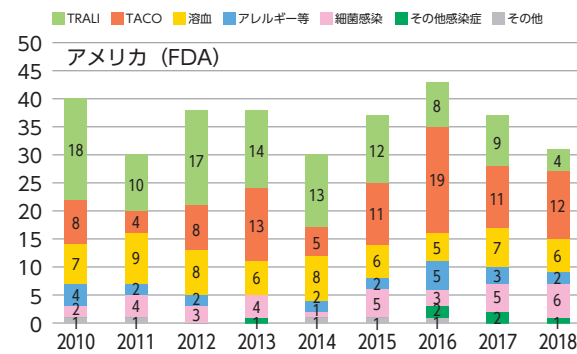
## ■ TRALI、TACO症例の推移 (2010年～2019年)

呼吸困難を呈した輸血副作用症例のうち、輸血関連急性肺障害 (TRALI) または輸血関連循環過負荷 (TACO) が疑われた症例について、診断基準 (TACOについては日赤評価基準) に基づいて評価した件数です。



2019年にTRALI疑いとして報告された症例及び症状からTRALIが疑われ、TRALI評価対象とした症例133例のうち、TRALI(またはp-TRALI)と評価された症例は4例(3.0%)でした。一方、TRALI評価対象症例のうち最終的にTACOと評価された症例が52例(39.0%)もありました。

## ■ 海外の輸血による死亡例の推移



\*TAD: Transfusion-associated dyspnoea 輸血関連呼吸困難

24時間以内に発症する呼吸困難であり、TRALI、TACO、アレルギー反応の診断基準を満たさず、患者の基礎疾患や既知の原因で説明できないもの。アメリカ、イギリス共にTACOによる死亡症例が多く報告されています。輸血前に患者の心機能や腎機能の低下が疑われる場合は、輸血量、輸血速度に注意し、輸血中の十分な観察が必要です。呼吸困難などの症状が現れたら輸血を中止し、重症度に応じて酸素や利尿剤の投与等、心不全の治療に準じて処置を行ってください。

[参考資料]

- 1) Fatalities Reported to FDA Following Blood Collection and Transfusion: Annual Summary for Fiscal Year (2010-2018)  
<https://www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/report-problem-center-biologics-evaluation-research/transfusiondonation-fatalities>
- 2) ANNUAL SHOT REPORT 2019 Figure 3.3 一部改変 (副作用データのみ抽出)  
<https://www.shotuk.org/shot-reports/>

輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

## 輸血情報 2009-172

(発行元)

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課  
 〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号  
 ※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター  
 医薬情報担当者へお願いします。



## 日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報

スマートフォン・タブレットにも対応しています。

